

東胆振の広域連携に向けて 定住自立圏構想

問合せ 企画財政課企画グループ

☎ 27551

定住自立圏構想って何？

定住自立圏構想とは、地方圏における人口減少や高齢化等を踏まえ、生活機能の確保や地域住民の利便性の向上など、圏域ごとに「集約とネットワーク」の考え方に基づき圏域の市町が互いに連携協力することで、圏域全体の活性化を図ることを目的として平成21年度に制度化された広域連携の取り組みを言います。

安平町の状況は？

安平町における定住自立圏構想については、苫小牧市・白老町・厚真町・むかわ町・安平町の1市4町で構成される東胆振広域圏振興協議会において、これまで協議検討が行われてきました。5月23日に開催された平成26年度東胆振広域圏振興協議会総会で、1市4町による東胆振広域圏として定住自立圏構想を推進することで合意したところです。

今後は？

今後は、苫小牧市による中心市宣言が行われた後に、関係自治体は一定の手続きを経て、中心市との定住自立圏形成協定を締結することとなります。また、協定締結後には連携協力して行う具体的な事業計画「共生ビジョン」を策定することとなりますので、取り組み内容など協議が整いましたら改めてご紹介をしていきます。



ポイント

日本は、人口減少社会に突入し、少子高齢化が急速に進んでいます。今後、三大都市圏を除いた地方圏では特に大きく人口が減少していくと予想されます。こうした地域を取り巻く課題や環境変化に対応するため、中心市と周辺自治体が互いに連携協力することで、「暮らしやすい」魅力的な圏域の形成を目指すものです。

●中心となる市（中心市）とは？

生活に必要な都市機能など一定の集積があり、自らの住民のみならず、周辺自治体の住民もその都市機能を活用している都市のこと。（人口要件などいくつかの条件があります。）

※都市機能：中核的な医療機関のほか、福祉機関、教育機関、交通機関、公的機関など

●周辺自治体とは？

中心市と近接し、経済、社会、文化又は住民生活等において密接な関係がある市町村のこと。

道内の取り組み状況

北海道内では、下記の圏域をはじめ計9圏域において定住自立圏形成に伴う協定締結が行われています。（H25.12.25 現在）

圏域名	構成自治体
西いぶり定住自立圏	室蘭市（中心市）、登別市、伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町
北しりべし定住自立圏	小樽市（中心市）、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村